

気候変動に関する政府間パネルは第 32 回総会においてプロセスと手続を強化する。

韓国、釜山-2010年10月14日- 本日、最近の総会において、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、いくつものプロセスと手続を強化することを決定した。

これらの変更は、IPCCの作業の仕方やそれがどのように統制されるか、また気候科学の最良の評価を確実にするという主たる目的の助けとなるだろう。

パネルは、IPCCのプロセスと手続についての独立レビューの中でインターアカデミーカウンシルによってなされたいくつもの勧告や助言を検討した。

IPCC議長ラジェンドラ・パチャウリ博士および潘基文国際連合事務総長が共同で2010年3月にこのレビューを要請した。IACはレビューを2010年8月30日に公表した。

パネルはIPCCの作業の仕方やそれがどのように統制されるかを改善するためにIACの勧告が重要であるという結論を出した。

IPCCはこれらの勧告に、透明で開かれた、また最も高品質な評価報告が作成されて国際共同体が利用できることを確保する方法で対応するための断固とした行動を行なっている。

第32回総会において、パネルは多くの勧告を直ちに実施することに合意した。これらは、不確実性に関するガイダンス、非査読文献、および潜在的な誤りへの取り組みを含む。加えてパネルは、執行委員会の設立に取り組み、作業部会の議長および副議長への委託事項ならびに事務局の主な責任をレビューする、タスクグループを設置することに合意した。IPCCは厳格な利益相反についてのポリシーの実施も決定し、オプションを提案するタスクグループを設置した。

パネルはコミュニケーション戦略を開発するという勧告を受け入れた。パネルはまたIPCCの評価報告書作成手続に関連するIACのその他の勧告に取り組むタスクグループを作った。

IACのレビューはIPCCがなした気候科学の科学的、技術的および社会経済学的側面の理解の改善への貢献、および強固な評価プロセスへの世界の主導的な科学者とその他の専門家の参加を強調している。

2014年に公表されるだろう第5次評価報告書の作成作業は進行中であり、これらのパネルによる決定により利益を受けるだろう。

総会での結論を受けて話すラジェンドラ・パチャウリ博士は「パネルがIACレビューにおいてなされたいくつもの重要な勧告を受け入れたことを嬉しく思う。これらがIPCCを強化し、IPCCが気候科学を正確に評価するという役割を効果的に実行できることを確実にするだろう。改革のプロセスを継続するパネルとともに作業できることを楽しみにしている。」と述べた。

編集者のための注釈

気候変動に関する政府間パネル

IPCC は 194 の参加国から構成される分野横断的な政府間組織である。利用可能な関連文献に基づき世界的な気候科学の評価を遂行するために世界中の科学の専門家を動員する。

世界中からの数千人の科学者が IPCC に貢献している。IPCC 議長を含め、IPCC ビューローの構成員は、その専門的な能力において従事しており、IPCC から支払いを受けていない。厳格なレビューはプロセスの本質的な部分であり、貢献する個々人の範囲を広げ、現状の情報の客観的かつ包括的な評価を確実にしている。

2007 年に発表された IPCC 第 4 次評価報告書については、130 カ国からの 559 人の専門家が主執筆者として従事した。2,500 名以上のレビュアーが 90,000 以上のコメントを提供した。

問い合わせ先：

IPCC 事務局

Tel : +41 22 730 8208/8254/8284

Fax : +41 22 730 8025/8013

Email : IPCC-Media@wmo.int

Website : <http://www.ipcc.ch>